

対象年度	平成31年度										総合計画実施計画策定及び行政評価シート																		
事務事業名	施設整備事業										予算事業名																		
予算科目	会計	企業会計	款	1	項	1	目	1	事業	要求区分	經常経費	根拠法令	水道法																
総合計画体系	2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)										事業の区分		主要事業																
	2-5安全な水を安定供給できるまちづくり(上水道)																												
	①安全で安定した水の供給										担当課係等		水道課																
1浄水場施設等の更新										施設係																			
事業期間	継続(昭和39年度～平成32年度)																												
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】										【事業開始のきっかけや他市の状況など】																			
水道施設整備基本計画を将来をみすえたものに見直し、本町・林浄水場の施設改修、更新工事を実施することで安全な飲料水を安定的に供給する。										昭和40年に給水を開始しており、耐震化を含めた本町・林浄水場の施設の更新が必要である。水道水の濁り(赤水)を解消し、安全な水の安定供給を図る。																			
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】										【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】																			
本町浄水場配水ポンプ更新工事及び電装設備更新工事(H30・H31・H32) 浄水場各施設水位計更新工事 浄水場計装機器更新工事 アセットマネジメント(資産管理)運用 施設台帳整備、長寿命化・更新計画の策定 老朽導水管の布設替 導水管の個別化 施設の耐震化及び応急給水・応急復旧の方針策定										本町浄水場 林浄水場																			
										【事業をとりまく環境の変化】																			
										昭和40年に給水を開始したが、契約者減少、節水型機器の流通、電気料値上げ、県水受水量の増に伴う深井戸取水の減量等、年々課題が増え続け、事業運営は益々厳しくなっている。また、施設の老朽化により、赤水発生が慢性化している。今後は県水受水量の増加が見込まれ、水源の構成変更に合わせた施設の見直しと、受水量の増加に伴う受水費の増加や耐震化・老朽化対策の財源を確保しつつ、健全な水道経営を持続するため、水道料金水準の検討を行う必要がある。																			
【平成31年度 事業内容】										【平成32年度 事業内容】										【平成33年度 事業内容】									
本町浄水場配水ポンプ電気設備更新工事 林浄水場着水井水位計更新工事 林浄水場3号井代替井戸開発工事 林浄水場ろ過池水位計更新工事										本町浄水場配水ポンプ電気設備更新工事 林浄水場配水流量計更新工事 林浄水場配水圧力計更新工事 本町浄水場受電設備等更新設計委託										本町浄水場受電設備更新工事 林浄水場自動制御盤更新工事									
■事業費																													
			H29年度				H30年度																						
財源内訳	国庫支出金		0				0																						
	県支出金		0				0																						
	地方債		20,000				83,000																						
	その他の		23,776				3,653																						
	一般財源		0				0																						
歳入計(千円)			43,776				86,653																						
歳出内訳	節(番号+名称)		金額(千円)				金額(千円)																						
	13 委託料		22,038				0																						
	15 工事請負費		21,738				86,653																						
歳出計(千円)(A)			43,776				86,653																						
伸び率(%)							97.94																						
備考	総合計画 87ページ 予算書426ページ																												

平成29年度行政評価シート

■指標

種類	指標名	単位		H29年度	H30年度	H31年度
活動指標	浄水場耐震化	箇所数	目標	0	0	2
			実績	0	0	0
			目標	0	0	0
			実績	0	0	0
成果指標	耐震化率	%	目標	100	100	100
			実績	87.2	0	0
	水質検査基準違反	件数	目標	0	0	0
			実績	0	0	0

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	益々必要性は高まっている。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	法的な問題があり，行政が実施すべき事業である。
	手段の妥当性	B どちらとも言えない	基本計画を見直し，長期的視野を持って計画を立てる必要がある。
効率性	コストの効率性 ・人員効率	B どちらとも言えない	人員削減・業務委託化等によりコスト削減はされているが，これ以上の効率化を図るならば，抜本的な施設改修が必要である。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	広い範囲に対して便益が提供されており，偏りは見られない。
有効性	成果向上の余地	C 成果の向上は見られない	浄水場を運営していくうえで，最低限の更新しか実施できていない。
進捗度	事業の進捗	C 遅れている	施設長寿命化計画について，今後検討していく。

総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し，問題点・課題等を指摘してください

平成23年度に実施した施設整備計画見直しについては，現ビジョンとの大きな違いがなく緊急的な施設の改修等はない。今後も老朽化した施設について日常の維持管理にて点検調査を行いリストアップしながら施設改修計画を立てていく必要がある。

対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか

基本計画・施設更新計画を将来を見据えた手戻りの無いものに見直し，またこれを実施する必要がある。

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 浄水場の目的である安全安心で良質な水を安定的に供給することを維持するため，施設の老朽化や耐震不足に対する対策を急がなければならない。 このため，耐震性が不足している施設の改善と老朽化施設及び設備の更新を最優先して行っていく必要がある	
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	